

REA

Real Estate Alumni Association

News
vol.21

明海大学浦安キャンパス同窓会 緑風会報

◆ 特集

緑風会創立20周年記念パーティー

ホームページ <http://www.meikai-rea.jp/>



緑風会創立20周年記念 阪本一郎先生講演会

明海大不動産学部の軌跡

8月6日浦安ブライトンホテルで、緑風会創立20周年記念パーティーを行った。その中で、昨年度で退任された不動産学部名誉教授阪本一郎先生に、不動産学部設立秘話、また、不動産学部のカリキュラム作成の苦労などをお話いただいた。

緑風会創立20周年、本当におめでとうございます。先ほど、新しい会長のあいさつにもありましたが、緑風会組織を見るだけでも、これは単に、「いやー、久しぶり、懐かしいね」というだけの組織じゃなくて、もっと社会に生産していく組織になっているなど非常に感心しました。そういう学生を育ててきたんだなとちょっと安心しております。

■ 「20年」という年月

さて、自分の持っている写真から、なんとなく縁が多くあるものを持ってきたのですが、緑風会ができたのが1996年ですから、20年経ちました。この間には政府の借金は2.5倍に増えましたけれども、給料体系はほとんど上昇せずに来ておりますし、物価もその分上昇しないという、こういう社会の中で皆さん暮らしてこられたんだなというふうに思います。話を不動産学部の中に限定しますと、20年っていうのは結構大変な年月で、20年前というと、石原先生が不動産学部を創立されました。

石原先生は、その後数年でお亡くなりになってしまいましたけれども、「不動産学部というのを明海大学に作る」と大変な気合を入れて作られた、その基本的な構造は今でも変わっていないと思っております。

これからの話は、今年3月に行った最終講義のときの資料を少し織り混ぜながら、話をさせていただきます。

日本初の「不動産学部」設立 学問としての不動産とは

不動産学部が設立されてから20年経ちましたけど、

私は教員ですから教員側の視点から言うと、この間に随分カリキュラムを変えてまいりました。その間5つのカリキュラムがありました。さらに現在の学生にはもう一つ別のですから、計6個のカリキュラムがあったということですね。最初は、カリキュラムに対応してコースというのがありまして、『行政政策』『金融鑑定』『経営管理』の3つのコースでスタートしました。『行政政策』は2000年で無くなるんですね。『金融鑑定』と『経営管理』は、ずっと似たようなものが続いております。『環境デザイン』とか、『環境情報』なんていうのがありますが、これは2009年以降まとめて『デザイン』という名前に変わっているわけです。

一生懸命考えて作ったコースなんですけど、他愛無いもんだったかなっていう感じがします。確かに最初のほうのコースは、一応コースの名前付いてますが、それを出たからどうということにはなかったんですね。

ただ、対外的には大変意味がありまして、確か15周年記念のときに小泉先生がその設立の話をされました。不動産学部というのをこの明海大学に作るということで、文部省をいかに説得するかが大変だったと。当時の石原先生が中心になって取り組んでいたわけですが、そんなものが学問かと言われた。そういう中で、

1992年	1996年	2000年	2004年	2009年 十周年
行政政策	行政政策	—	—	—
金融鑑定	金融鑑定	金融鑑定	金融鑑定	ファイナンス
経営管理	経営管理	経営ビジネス	経営ビジネス	ビジネス
—	—	同発企画	環境デザイン	環境デザイン
—	—	—	環境情報	デザイン



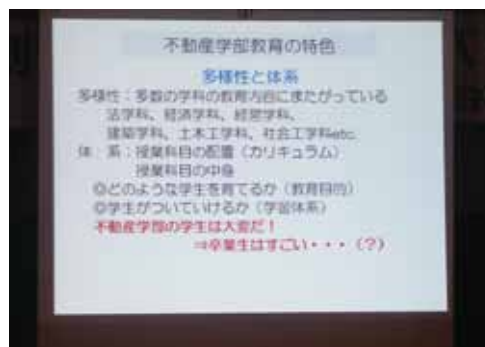
いろいろな理屈を付けてというか、当時の1973、4年ぐらいの地価の上昇。それからその後の1986年からのバブル経済というような、地価が急上昇することで、土地や住宅問題がたくさんある中で、それに対処できる人をつくらなくちゃいけないっていうのが最も大切な出発点だった。ですから、そういう意味ではこのカリキュラムの『行政政策』っていうのは、対外的に、特に対文部省的には非常に重要な存在で、「『行政政策』も学ぶのだからぜひ認めてください」というところがあったと思います。これも石原先生に聞いた話なんですけれども。はっきり言って、しばらく経ちましたら、公務員になりたいって人があんまりいなかったんですね、入学者の中に。もちろん公務員になった人もいますが。そういうわけで、むしろ民間企業で働くというと、『行政政策コース』というものの存在意義がなんとなくはっきりしないなということで、2000年でやめてしまったと、こういうことです。

この中で一番おいしいコースは何かって言うと、『環境情報コース』です。さっき学長が資格を取れという話をしておりましたけれども、この環境情報コースは、卒業するだけで国家資格が取れるの!?というコースだったんですが、なんとなく測量とか、あるいは土地家屋調査とか、そういう名称が世の中で一般的でなかったせいか、いまいち人気なかったんですね。ちょっと惜しかったなと思っています。それから、この環境デザインコースっていうのは、社会的に見れば建築学科と同等の扱いを受けておまして、これを取ると建築士の試験を受けるとき、随分便宜が図られるというものでした。

こういうような過程を経て、現在の3つの『ファイナンス』『ビジネス』『デザイン』と、こんなふうが変わっております。でも、皆さんが卒業したときに、どのコースを卒業したかで少し持っている価値観なり、文化がちょっと違うかもしれないので、改めて自分は何コースを卒業したのかな、どんな科目を受けたのかな、というのを頭の中で思い出していただくと、それがまた何か新しいきっかけになるかもしれないと期待しております。

■明海大学ならではの不動産学部教育

さて、不動産学部教育の特色、皆さんが受けた教育の特色というのは、つまり、他の大学や他の学科を出た学生とどう違うのかということで、一言で言うと、「多様性と体系」だろうというように思います。多様性とは何かというと、要するに不動産学科っていうのは多数の学科の教育。多数の学科とは、少なくとも、法学、経済系から、建築、土木、社会工学と、たくさ



んの学科にまたがっているものを勉強している。これはなかなか大変なことだと思います。

一方の体系というのは教育体系ですから、ある意味では授業科目の配置、カリキュラムということなんですけれども、それに加えて授業科目の中身と、同じ名称の科目でも、よその大学で教えている科目と、不動産学部で教えている科目は少し違うかもしれないと、そういうようなところが体系ということになります。これまでのことを決定するのは、一つは、どういう学生を育てるかという教育目標。そしてもう一つは、学生がついていけるかという学習体系をどう組み立てるかということになります。ですから、不動産学部は、このいろんな種類のことを勉強しなくちゃならないっていう意味では、不動産学部の学生は卒業するのが大変だと。ですから、卒業生はすごいと。こういう結論が自動的に導かれるわけです。

皆さんも大変なんですけど、そういう体系を作っていくわれわれ不動産学部教員も大変でした。例えば、法学部の学生に法学部の先生が教えるっていうのは、まあそう難しくはないかもしれないけど、不動産学部の学生にそれぞれの専門分野を教えるというのはなかなか大変なことなんです。現役の不動産学部の教員の方々は、まだまだこれから大変な毎日を送っていかれるんだということで、健康に気をつけてお過ごしいただきたいと思います。

■都市計画という観点からみる不動産学

それで、さっき授業科目の中身もやっぱり不動産学部らしく、他とは違うかもしれないという話をしましたが、私は専門が都市計画ですので、少し都市計画という観点から、不動産学部の都市計画って他の都市計画とどう違うかって話をちょっとだけさせていただきます。

不動産学部設立前、設立が1992年ですからもっと前ですね。70年代、80年代の頃、日本の都市計画の研究というのはどうであったかということ、それを代表



するのは、一つは東大が都市工学科というものを設立した1962年。ここでは、都市計画の制度作り、あるいは計画論といった研究がなされる。あるいは、公共施設の供給の仕方。いわば公共事業とでも言っているんですけど、こういったものが主として研究の主要な対象でありました。つまり、政府重視の都市計画とも言えるようなもの。政府の行動をどういうふうにしたらいいかを考える都市計画。つまり、都市はいかにあるべきかという観点に立った都市計画の研究がなされていたというように思います。

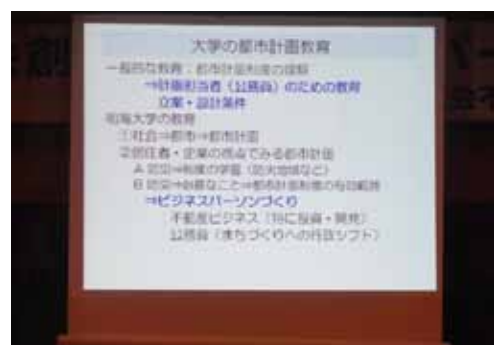
それに対して、東工大で、社会工学科が1966年に設立され、都市計画の先生である石原先生は設立者の一人なんですけど、その都市計画はという都市計画であったかという、ちょっと違うんですね。石原先生や、石原先生の下で研究をしていた石原研究室のやったことは、例えば再開発事業。世の中にいっぱいありますが、再開発事業はというふうに成立するののかといったような観点から研究をすると、どうしてもテナントの分析というのが必要になります。あるいは商業地を活性化させる。これも非常に大きなテーマ。私も何度もいろんな商業地に活性化の相談に出掛けましたけれども、その商業地を活性化させるキーポイントは、そこに来る人間です。つまり来街者をどのように把握するか、掴むか。来街者にとって魅力的な商店街をどう作るというのがポイントでありました。

あるいは居住環境施設というの、随分お金がかかりますね。例えば公園を作ったりとか。だけど、こういうものを作ったらいいのだろうかというときに、居住者の意向や何を期待しているかを気にするというのが、どうしても必要になります。したがって、そういったことから“現象把握”というのがとても大事だと。そのうえで調査したり、データを分析したりということが石原研究室の主眼点でありました。これは言ってみれば、居住者と、企業と、こういったものをその中心に据えた都市計画の研究であった。これは“いかにあるべきか”というよりも、“いかになるか”っていうほうの都市計画研究だったと思います。われわれ人間は“いかに生きるべきか”というよりも、人間は“どう生きられるか”というほうが結構大事な感じがしますし、どうあるべきかという観念論ではなくて、現実にどういうことが可能なのか、どういうことが実現しているのかということを中心にした、石原先生の姿勢みたいなものが研究室の研究にあった。私自身も石原先生の門下生ですから、都市の変化というものを中心に研究しました。つまり、明海大学の都市計画を作るときの、その基本的な価値観みたいなものがそこにあったように思います。

それで、じゃあ、大学の都市計画教育ってなんだろうと。大学で都市計画を教えているのは、だいたい今までは建築学科、それから土木工学科、いわゆる理系で教えられているんですね。一般的な内容というのは、都市計画制度というのを理解することである。ですから、その授業の内容を見ますと、いろんな都市計画制度が、体系が並んで、そしてそれはどういうものであるかを教える。さらに今どういうものが必要か、こんなような感じで教えている。これは一つは公務員のための教育。計画をする人のための教育であるし、もう一つは、立案とか設計の条件として都市計画を考える。

ここに土地があるとして、どんなものが作れるか、容積率はこれぐらいで…というときに、都市計画の仕組みを知っておくと便利ですね。別にそれだけだったら大学で勉強しなくてもいいかなって感じがしますけれども、そういうものでした。それに対して、明海大学での都市計画の教育というのは、このように考えました。基本的には昔からほとんどずっと都市計画担当させていただきまして、私の考えかもしれませんが、先ほどの基本認識と同じです。社会の中に都市がある。つまり社会が変われば都市も変わると。そしてその都市の中に、一つの要素として都市計画がある。こういう考え方です。ですから、都市計画から社会を見るのではなくて、社会から都市計画を見ると、こういうような見方です。もう一つ言えば、居住者や企業者の視点で見る都市計画。例えば防災が必要であると。では、防災に関してどのような制度があるか学習しましょうと。防火地域はこうなっていますよという感じの教え方があります。これはどちらかと言うと、一般的な教え方です。

それに対してこの明海大学での教え方というのは、防災ではどんなことが必要なのか。例えば、建物と隣の建物の間の隣棟間隔が開いていることが、燃え広がらない条件としてどれぐらい大事なんだろうとか、あるいは逃げるときにどういうことが必要なんだろうといったことを教える。そして、それに関わる都市計画制度というのはどういうものがあるって、その都市計画制度の中でどういうことが足りていないのかというこ





とを位置づける。こういう教え方をずっとしてきたつもりです。皆さんがなんと言うかわかりませんが。

こういうのを通じて、やっぱりわれわれが懸念しているのはビジネスパーソン。例えば不動産ビジネス、特に投資や開発、あるいは公務員。公務員というのはこの場合、計画を立案するというより、最近の地方行政というのは、まちづくりへとシフトしていますから、そのまちづくりを担当できる人という意味で。もちろん市民づくりも。皆さんは会社の社員であると同時に、市民である。一市民として、まちづくりの担い手であることも潜在的には期待されているわけで、それはどういう人間であつたらいいのかっていうことです。つまり、従来は「制度」というものを動かないものとして捉えるんですが、今現在の社会は、都市計画の制度というのは非常に融通が利くようになってきております。それから変化、変えることもできるようになってきております。どのようにそれをいじつたらいいのか。どのようにそれを適用したらいいのかという視点がこれからのビジネスパーソンには必要ですから、そういったような研究や教え方が必要かなというように思っています。

■考えてみよう！「おみやげ」タイム

さて、これでだいたい私の話は終わりなんですけど、せっかくお祝いですからおみやげを一つ皆さんに用意しました。まず、命題と。なんか厄介ですね。「都市は人口密度が高い」。これ合っているでしょうか。普通はそうですね。都市って人がわんさかいて、人口密度が高いと。例えば東京23区を見ると、1ヘクタール144人。つまり1万平方メートルに144人住んでいる。

明海大のある浦安市は、ヘクタール95人。100人近い。随分人がいっぱいいるんだなということになります。でも正しそうですね。都市は人口密度が高い。これ○か×かって言ったら、多分皆さん○と答えるでしょう。で、この命題を言い換えてみます。「対偶」って言葉がありまして、命題をひっくり返してみます。人口密度が低ければ都市ではない。これは、もしも命題が正しければその対偶も必ず正しいんですよ。これ単なる分類学。これに文句言ってもしょうがないですけど、人口密度が低ければ都市ではない。ちょっと見てみましょう。北京市。ヘクタール13人しかいない。重慶市になるとヘクタール36人しかいない。あれ？これは日本の、下手をすると農村よりも低いかもしれないという感じになります。このことから得られる結論は、北京市や重慶市は都市ではない。あれ？本当だろうか。重慶市というのは、世界の市の中で最も人口の多い市なんですよ。約3000万人。北京市は今1800万ぐらいかな。2000万いったかな。最近中国は人口の変化が激しいので。北京市や重慶市は都市ではないって言われると、いやー、それはいくらなんでも、どんなに常識ない人でも、そらおかしいね。さあ、これはどうしてこんなおかしいことが生まれたのかを考えてくださいってというのが、私のおみやげでございます。

創立20周年をお祝いできるだけの内容になっていないような気がしますが、無理やり私の話はこれで終わります。創立20周年、どうもおめでとうございました。



緑風会創立20周年 記念パーティー

2016年8月6日、浦安ブライトンホテルで緑風会創立20周年記念パーティーが開催された。当日は先生方をはじめ来賓、会員含め約100名が参加。料理とお酒を囲みながら、恩師と同期と先輩後輩と…思い思いの楽しいひとときを過ごした。ご出席いただいた皆さま、ありがとうございました。



安井学長ほか来賓の方々



講演会をしてくださった
阪本先生へ花束贈呈



安井学長によるあいさつ



阪本先生の講演に
聞き入る参加者



カンパ〜イ



北原同窓会会長による乾杯のご発声

不動産学部の近況を語る
周藤先生



近況報告をする
小泉先生



創立20年を振り返るスライドショーでは、
不動産学部創立を取り上げたニュース映像も



渡辺第4代代表（左）と
松島第5代代表の功績を称え表彰
（中央は小畑現代表）



林先生の
とびっきりSmile

あっという間に学生時代に戻れちゃうから不思議



久しぶりの対面に話が弾む。
近況報告を兼ねて名刺交換する場面も



男同士、語り合ってます！



料理を取る手も止まり、つい話に夢中



緑風会創立20周年を迎えて

第6代代表 小畑 昌也
Masaya Kobata

明海大学浦安キャンパス同窓会の不動産学部支部である「緑風会」は、今年創立20周年を迎えた。

1996年3月、「会員相互の親睦と母校の隆盛を図り、学術の振興、その他社会の発展に寄与する」ことを目的に、伊藤憲初代代表の下、日本で唯一の不動産学部卒業生が集う同窓会組織として発足。この会には組織の活性化と新陳代謝を図るため、代表の職は2期4年までという暗黙のルールがある。歴代代表、代表を支えた執行部や会員の皆様方の20年間の功績に敬意を表し、4年毎の緑風会活動の軌跡を振り返り、現在の活動とこれからの「緑風会」について考えてみたい。

創立20周年のあゆみ

卒業生初の不動産鑑定士試験合格者である初代代表の伊藤憲先輩の下「緑風会」は創立された。当時明海大学は新設校であり、同窓会組織の創設も全くの手探り状態。黎明期、組織の礎を築いた4年間だった。

2代目は不動産学部初代総代の佐藤仁思先輩が2000年に就任。ようやく卒業生が4学年揃うなど、同窓会の基盤が整った時期でもあった。しかし、就職後間もない卒業生が中心のため同窓会への関心が高まらないといった苦節の時代でもあり、そういったなか、理事会の度に地元関西から駆け付けるなど、強い責任感とリーダーシップで若い卒業生を牽引された。

2004年には現在母校で准教授として教鞭を執っておられる本間勝先生が3代目代表に就任された。不動産の生涯学習を提供する「緑風塾」や大学不動産連盟への加入を企図した不動産情報交換団体である「不動産緑風会」が下部組織として設立され、単なる親睦を目的とする同窓会といった枠組みを超えた、未来志向型の運営がなされた。

2008年、当時大手デベロッパーで活躍の渡辺孝之先輩が4代目代表に就任され、「強力な組織力の構築と緑風会ブランドの確立」というスローガンを掲げ、中期行動計画が策定された。この行動計画は4年間の任期満了後も緑風会内部に根付いており、現在の緑風会の運営指針のひとつとして継承されている。

5代目は、越谷市市議会議員として活躍の松島孝夫前代表が2012年に就任、今日に至るまでの4年間、様々な活動を展開された。

緑風会の「今」と、「これから」の発展に向けて

現在、緑風会は「運営」、「広報」、「学生支援」、「塾」、「交流」の5つの委員会を中心に運営されている。運

営委員会では、宅建や管理業務主任者をはじめとする卒業後の各種資格の取得に関する支援、退職教員表彰等の事業。広報IT委員会では、年1回、卒業生に対する会報の発行やホームページの管理運営、最近ではフェイスブックやラインといったSNSの活用の準備も進めている。学生支援委員会では、準会員である現役学生への支援として、不動産研究に関する討論会への審査員の派遣や、不動産学部が主催する「不動産キャリアデザイン講座」への就職支援講師の派遣を行っている。緑風塾では、生涯学習セミナーの提供、不動産鑑定士・司法書士など有資格者や不動産実務専門家のネットワークの構築といった事業を展開。そして、交流委員会では、年3回のビジネス交流会をはじめ、会員相互の交流の裾野を広げるためのバーベキュー大会、ゴルフ大会などの親睦事業、さらには学園祭時に恒例となった不動産無料相談会を実施している。

創立当初、正会員310人で発足した緑風会は、その後20年を経て、会員数5,232人の組織へと成熟してきた。

この先の20年を見据えた場合、同窓会の世代構成は“20歳代から60歳代”へと幅が広がる。つまり、「会員相互の親睦と母校の隆盛を図り、学術の振興、その他社会の発展に寄与する」という創立趣旨に立ち返り、活動をより一層円熟させていく時期にある。会の伝統と不動産学部をルーツとした会員相互のコミュニティの形成、つまり同窓生同士のつながりが最大の財産ではないか、という思いを皆様と共有できれば幸いに思う。

緑風会では毎年様々なイベントを開催している。ぜひ友人同士お誘いあわせの上、数年に一度でもいいので、参加いただき、同窓生同士のつながりを円熟させていきましょう。



Pen Relay ペンリレー

わたしの マタニティライフ

2015年7月4日、長男を出産した。働きながらの妊娠生活は、とても過酷なものだった。

特に辛かったのは、妊娠初期の悪阻(つわり)だった。

前年11月上旬、妊娠がわかってすぐ悪阻が始まった。覚悟はしていたが、これが想像以上の地獄だった。例えて言えば、酷い二日酔いの吐き気と頭痛が24時間続く感じだ。薬も飲めない。吐き気、頭痛が朝から夜まで続き、一日一日がものすごく長く感じた。車で片道1時間の通勤の途中、何度も車を停める。車通勤が辛いので電車で行ってみると、人の臭いで気持ち悪くなり電車を降りる。一駅が限界だった。

通勤も必死だったが、吐き気と頭痛が続くので、とにかく仕事のペースが遅い。そんな状態なので、職場に行っても圧倒的に仕事量が減った。酷い日には急に休む日もあった。それから眠気。自分でもびっくりするほど眠い。サボリじゃないのに頭の中でボーッとして仕事にならない。

何をしようと思っても、全く仕事にならない。世の中の働く妊婦さんは一体、どうしているんだろう。こういった身体の変化を、理解してもらえているのだろうか？私自身も、理解してくれている会社への感謝の気持ちと、仕事量・質の低下に対する反省と、日々葛藤があった。

妊娠中期に入り、徐々に悪阻も落ち着いた。命を預かっているという使命感を持ちながら、毎日の仕事と向き合った。お腹が少しずつ出始め、見た目では妊婦とわかるようになってきた頃には、お客様に親切にしていただけられることもあった。

そんなこんなで、長かった10か月のマタニティライフが終わった。マタニティマークを付けた女性を見ると、一年経った今でも、当時のことが鮮明に思い出される。妊娠は病気ではないし、障害でもない。初期は外見で判断もできない。だから時に、悪阻が【甘え】と捉えられることもある。電車に一駅乗る、ただ10分立ち続ける、そんな普通の人の方が当たり前になることが、妊娠中はとてつもなく辛く、出来ないこともあるのだ。

悪阻の症状は人それぞれ、全く症状のない人もいれば、入院しなければならないような人もいる。私にとっては過酷でとても長く辛い日々だったが、ただ、息子と一心同体で過ごした一瞬の時間であることは、言葉では言い表せない感動や喜びがあったことも事実である。妊娠は、かけがえのない貴重な体験だったと、今なら心から思うことができる。

大槻なつみ(2009年度卒)



川口市役所

登玉 健太 (理事)

今年度より、緑風会理事に加わりました、第13期の登玉（とだま）と申します。

埼玉県川口市出身の社会人9年目になります。卒業後、不動産会社等を経て、現在、川口市役所で働いており、建築確認申請や都市計画道路、震災復興派遣等の業務を行っております。

大学時代は、現在の趣味でもあるultimateのサークル活動に力を入れすぎて、勉学をおろそかにしてしまい、卒業も危うい時期もありましたが、当時小泉先生に大変お世話になりました。

大学には、今までお世話になった恩返しができるよう、緑風会の活動を頑張っていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

新任評議員・理事紹介

New Member's Introduction

本年度より緑風会理事を務めさせていただきます橋崎と申します。都内で不動産開発・賃貸・運用事業を行う不動産会社で働いております。理事に就任する以前より緑風会の先輩の方々には初めての就職の際や、折々で仕事のアドバイスをいただくなど大変お世話になっておりました。今後は私も先輩方を見習い不動産学部の発展や、卒業生の皆様の繋がりを応援できるよう尽力してまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。



株式会社
東京アセットソリューション

橋崎 剛 (理事)



都内不動産会社勤務

小野 史奈(理事)

今年度から緑風会に仲間入りした小野史奈です。社会人1年生で、見るもの・聞くもの全てに戸惑いを覚え、失敗しながら毎日を精一杯過ごしています。

大学での宅建等の資格挑戦や海外研修、そして理事となるきっかけになったサークル活動など、自身が学生のときに緑風会の先輩方からいただいたご支援や激励を自らが後輩へと継承していくとともに、緑風会だからこその「出会い」と、自身の「笑顔」という軸を大切に、日々進んでいきたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

平成28年度 バーベキューを開催しました

平成28年10月23日、浦安市総合公園で第2回バーベキューを開催しました。昨年と同様、OB・OGとその家族、学生の皆さん計30名の方が集まり、おいしいお肉を食べながら、普段顔を合わす機会が少ないご家族や学生が相互に交流できる場として、大変好評をいただいた交流会となりました。



緑風塾

緑風塾は明海大学浦安キャンパス同窓会緑風会の下部組織です。緑風塾は、「知識」や「情報」といった財産をより多くの皆様と共有し、財産を創造し続けたいという理念の下、活動しています。経営・投資・建築・証券化・税金・M&A等の知識を、勉強会を通じて皆様とナレッジシェアリングしていきます。



2016.11.6 [Sun] 明海祭プレゼンテーション大会(学部生実施イベント)

紅葉も色づく季節となり、天候にも恵まれ絶好の大会日和となりました。今年のプレゼンのテーマは、「学生にとって住みやすい街はどちらか?〜『三軒茶屋』と『葛西』で比較してみよう〜」でした。

プレゼン大会の成り立ちは、日本唯一の不動産部の明海大生が、社会に対して「不動産の観点から議論できるのではないだろうか」といった考えから生まれました。当日は学生が不動産学部卒業生並びに不動産学部学部長と議論を交わしました。

また、ベストエッセイストオブザイヤーも同時開催。これは、学生が住宅新報社へ定期的に執筆している記事「不動産の不思議、学生たちの視点と発見」を選考し、卒業生が優秀賞を表彰するものです。記事の展示会も行いました。



at 明海祭

無料不動産相談会を開催

地域の方々や卒業生を対象に無料で不動産に関する様々な質問・疑問にお答えします。

2016年11月6日(日)、明海祭が行われた浦安キャンパスで、無料不動産相談会を開催しました。今年で7回目となります。不動産関連業に従事している緑風会理事が対応しました。主な相談内容は、所有不動産の権利証紛失について、遺産相続について、事業用資産の買い替えについて、中古マンションの購入時の留意点についてなど、年々専門的な内容が多くなってきました。

相談会を実施することで、私たちが勉強になったことが多々ありました。今後も、皆様のお力をお借りしながら続けていくことで、着実に「緑風会」の地歩を固めていければ幸いです。



2015 年度決算・2016 年度予算

■ 2015 年度決算

単位 (円)

予 算	3,000,000
事 業 費	2,208,448
会 議 費	660,576
管 理 費	121,618
予 備 費	0
支 出 合 計	2,990,642

■ 2016 年度予算

単位 (円)

事 業 費	2,220,000
会 議 費	550,000
管 理 費	230,000
予 備 費	0
予 算 合 計	3,000,000

2015 年度事業報告・2016 年度事業計画

2015 年度 事業報告

会 議

第 56 回理事会	4 月 11 日 (土)
第 22 回評議員会	4 月 25 日 (土)
第 57 回理事会	7 月 11 日 (土)
第 58 回理事会	12 月 12 日 (土)
第 59 回理事会	2 月 13 日 (土)

事 業

BBQ	10 月 24 日 (土)
無料不動産相談会	11 月 1 日 (日)
学部生イベント支援	11 月 1 日 (日)
緑風塾セミナー	11 月 25 日 (水)
会報発行	12 月下旬
緑風塾セミナー	2 月 26 日 (金)
異業種緑風会パーティー	2 月 26 日 (金)
退職教員表彰	3 月 14 日 (月) 阪本一郎教授
資格取得支援	1 月～2 月受付 申請者 2 名 (宅地建物取引主任者 1 名・管理業務主任 1 名)

2016 年度 事業計画

会 議

第 60 回理事会	4 月 23 日 (土)
第 61 回理事会	7 月 2 日 (土)
第 23 回評議員会	8 月 6 日 (土)
第 62 回理事会	12 月 3 日 (土)
第 63 回理事会	2 月 4 日 (土)

事 業

創立 20 周年記念パーティー	8 月 6 日 (土)
BBQ	10 月 23 日 (日)
無料不動産相談会	11 月 6 日 (日)
学部生イベント支援	11 月 6 日 (日)
会報発行	12 月下旬
緑風塾セミナー	2 月 24 日 (金)
異業種緑風会パーティー	2 月 24 日 (金)
退職教員表彰	3 月 15 日 (水)
資格取得支援	1 月～2 月受付

2016 年度 評議員 (計25名)

1995 年度卒：吉池 豪、酒井 上、戸田友紀子
 1996 年度卒：小田倉憲一
 1997 年度卒：齋藤 豊、宋 杰、大友哲哉
 1998 年度卒：渡邊昭仁、齋藤哲生
 田村康史、向井順哉
 1999 年度卒：久保ノ谷淳、高橋秀輔
 2001 年度卒：竹内靖治

2002 年度卒：曹 雲珍、藤坂篤史
 2006 年度卒：持田裕司、関根健太
 2008 年度卒：市川友博
 2009 年度卒：大槻なつみ
 2012 年度卒：山下 匠、武笠秀明
 2013 年度卒：富山大貴、木下さわこ
 2014 年度卒：垣田将吾

2016 年度 理事

卒業年度	役 職	氏 名	卒業年度	役 職	氏 名
1996	代 表	小 畑 昌 也	2013	理 事	林 邦 人
1996	副 代 表	小 野 文 章	2013	理 事	平 岡 宇 球
2000	事務局担当	道 下 直 明	2015	理 事	小 野 史 奈
1996	理 事	西 岡 伸 行	2015	理 事	森 田 愛 理
2001	理 事	小 谷 地 あ ゆ み			計 15 名
2002	理 事	中 山 直 彦	1995	顧 問	伊 藤 憲
2002	理 事	後 藤 智	1995	顧 問	佐 藤 仁 思
2007	理 事	門 脇 千 聡	1995	顧 問	本 間 勝
2007	理 事	登 玉 健 太	1995	顧 問	渡 辺 孝 之
2008	理 事	檜 崎 剛	1998	顧 問	松 島 孝 夫
2009	理 事	津 賀 国 栄			計 5 名

編集後記

今号もたくさんの方のご協力とご執筆をいただき、21回目を数える『REA News』を発行することができました。今回は、「緑風会創立 20 周年記念パーティー」の話題を中心にまとめました。参加できなかった方にもその雰囲気が伝われば幸いです。

また、ホームページでは近況やお役に立つ情報をお届けしていますので、ぜひご覧ください。

2017 年度も皆様にとって、良い一年となりますよう心よりお祈り申し上げます。

緑風会理事 中山

緑風会ではホームページを 随時更新しています

緑風会のイベントのご案内や活動写真、活動内容、住所変更フォーマットなどを掲載しております。ぜひ皆さまご覧ください。

URL <http://www.meikai-rea.jp/>

「明海 緑風会」で検索してください